

る。右のルンゼに入り、途中から左岸に登って稜線に出る。稜線には踏跡があり、果樹園まで続いていた。

(記・
「タイム」 赤沢右俣出合(九:四〇)
↓終了(一〇:三五)

高山沢

L*
一九八二年八月二九日

天気快晴。出合の堰堤上流は、堆石で埋まつており、水は伏流となっている。ほどなく水流も現れ、F1

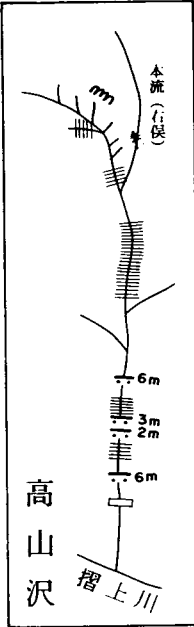
のナメ滝に着く。左右どちらでも登れる。仕事道らしい、荒れた踏跡が所々に見えている。

六びとなる。これは右側を直登する。上流はナメ床が断続的に続き、段々を所々にミックスしている。ナメ

八時五〇分、二俣に着く。右俣が本流で、そっちに入る予定だったが、判断がまずくて左俣をつめてしまう。

とナメの間に小さな落差の滝、F2、F3を落し、この沢の核心部である。

やがてF4六び



背丈ほどのカヤのヤブを沢ぞいにつめ、灌木帯を抜ける。九時五〇分、六九六びピークと六七〇・三びピークの間のコルに到着。一息いれて手網沢への下降に移る。

(記・
「タイム」 高山沢出合堰堤(七:二〇)
↓二俣(八:五〇) ↓コル(九:五〇)

